

2016 公開シンポジウム「徹底討論！被災地での災害対応における情報の利活用とは？」 で登壇しました(2016/11/24)

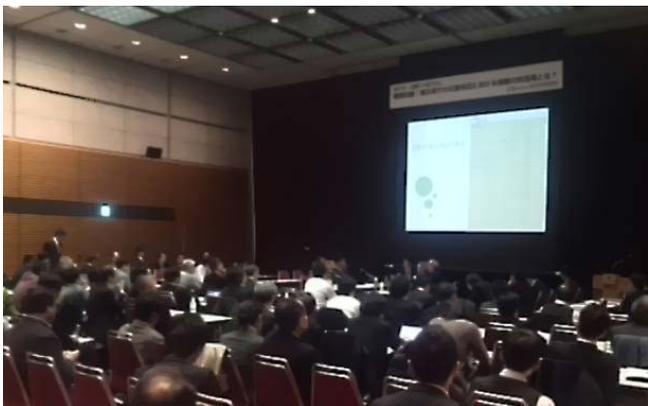
テーマ：災害情報

場所：東京国際フォーラム（東京都千代田区）

11月24日（木）、東京国際フォーラムを会場として、国立研究開発法人 防災科学技術研究所の主催による「2016 公開シンポジウム 徹底討論！被災地での災害対応における情報の利活用とは？」が開催されました。本公開シンポジウムは、2016年4月の熊本地震における防災科学技術研究所の情報支援を踏まえ、情報の利活用に関する防災研究のあり方や求められたものについて、実際に災害対応にあたる実務者や有識者による討論の場として開催されました。

シンポジウムは、2部構成で行われました。第1部では、防災科学技術研究所が熊本地震で行った情報支援活動に関する基調報告がありました。第2部は、「徹底討論！被災地での災害対応における情報の利活用とは？」ということで、パネリストによる討論会が行われました。第2部の前半は「その1 発災直後、超急性期の情報利活用とは？」、後半は「その2 災害対応で求められる情報のあり方とは？」というテーマで行われました。

当研究所の佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）は、第2部・討論会にてパネリストとして登壇しました。佐藤翔輔助教は、「ビッグデータとしてのソーシャルメディアは、『災害』に役立つか？」という題目で話題提供した後に、行政担当者やメディア関係者との総合討論を行いました。パネリストからだけでなく、会場からも活発な議論が行われました。当日は雪の天候にも関わらず、参加者は80名を超え、盛会のうちに終わりました。



会場の様子



佐藤翔輔助教による話題提供

写真提供：水井良暢研究員（防災科学技術研究所）・秦康範准教授（山梨大学大学院）

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）